卒業論文執筆教訓集

－2009 年度（2010 年 1 月提出者）版－

１．神谷真紀子

教訓①

取り掛かりは早く

私は卒論の取り掛かりがともかく遅かったです。今までの偉大な先輩方は、もっと早く始めていたようです。加えて私は卒業論文のテーマが独立論文と全く異なるものを設定したため、先行研究から始めなければなりませんでした。独立論文からテーマが継続しているゼミ生は、やはり第 2 章の先行研究が少し楽になるようです。独立論文から継続したテーマで卒業論文を書くことをおすすめします。しかし私のように「独立論文は論文の書き方と体裁を学ぶためのものである！」と割り切って、3 年次のうちに好きなことを追求しておくのも楽しいですよ。私の経験では参考にならないかもしれませんが、以下に卒業論文の取りかかりから提出までのスケジュールを載せておきます。

◆3 年次◆　独立論文を執筆。この際に卒業論文執筆者から色々とアドバイスをもらっておくとよい。1 年後のイメージを持つことが出来る。論文の内容はともかく独立論文を書くことで論文の基本的な書き方や体裁を覚えることが大切。

◆4 年次◆

5 月　フィードワーク開始。

6 月　教育実習。

6 月末　第 1 回題目提出前、関根先生に相談。

7・8・9 月　教員採用試験で卒論を一時中断。

9 月中旬　先行研究開始（←遅い）、フィールドワークも再開。この後 12 月末まで週 1 でフィールドワーク先へ通う。

10 月上旬　卒論のおおよその構想を固め、遅れながらもゼミで構想発表。

10 月末　学類の卒業論文中間発表をなんとかしのぐ。中間発表までは自主ゼミで発表練習などを行う。

11 月中旬　2 度目のゼミ発表。その後、卒論執筆開始。

12 月上旬　関根先生に第 1 回提出（第 1 章）。

12 月中旬　　自主ゼミを行って執筆者同士で草稿を読みあい、添削をする。この頃フィールドワークが全て完了する。

12 月下旬　　早川さんに提出（第 2 章まで）。

12 月末　　関根先生に第 2 回提出（第 2 章まで）。

年末年始　　他のゼミ生は帰省しなかったので焦りを感じ､帰省先で執筆を続ける。ひたすらフィールドワークのデータをおこす作業（第 3 章）に追われる。

1 月第 2 週　　関根先生に第 3 回提出（第 3 章途中まで）。関根先生に相談。

提出 1 週間前　関根先生に最終提出（第 5 章まで）のはずだったが、第 5 章の結論を大幅カットされ、4 章立ての論文に変更となる。関根先生に相談。

提出 2,3 日前　第 4 章と第 5 章（結論）の書き直し。英文サマリーや謝辞も書く。このころ K 棟でゼミ生同士の合言葉は、「こんな出来の悪い学生が来年もおったら関根先生に迷惑になる、先生のためにも卒論書き終えて卒業しよう！」になる。

提出前日　　見直し、誤字脱字チェック。結論の部分は最後まで関根先生に相談に行く。

提出当日　　提出直前に表紙に間違いが発見されハネられるものの、表紙だけ印刷し直して無事提出完了。ゼミ生と湯楽の里に行き癒される。ゼミの皆で祝賀会。先生の一本締めで卒論が終わったことを実感する。

教訓②

<u>頼れるものは頼る</u>

卒論の執筆作業は基本的に 1 人ですが、やはり論文はひとりの力だけでは完成することは出来ません。論文をひとりで書き、推敲してばかりではいけないと思います。ある程度の構想や文章ができたら、迷わず院生の先輩や関根先生のところへ相談に行きましょう。「こんなの見せたら叱られるかも」と不安があってもだいじょうぶ、関根先生は優しく笑って受け止めてくださいます。ひとりで間違った方向に走る前に、私のように章構成をギリギリで直されないためにも、早め早めにこまめな相談をするのがおすすめです。私は先生に見せるのがあまりに不安だったので、自主ゼミを開いてゼミ生同士で草稿の読み合いもしました。

またゼミ生同士で情報交換をすることは大切です。私の代の卒論執筆者は自主ゼミメーリングリストを作って、自主ゼミ日程から、提出日の情報、卒論の体裁に関わることまで何でも情報共有をしていました。ワードの細かい機能などもゼミ生同士で情報交換すると良いです。（見出しマップ、目次機能、ctrl キーの使い方、文字変換時の tab キーの使い方、置換機能など、知っておいたほうがお得な機能が実はたくさんあります。）パソコンに詳しい人をつかまえるといいでしょう。

教訓③

フィールドワークのすすめ

関根ゼミに入ったのならば人類学的研究の醍醐味、フィールドワークに挑戦して卒論を書くことをおすすめします。データの量や質にもよりますが、基本的にフィールドワークをして得た 1 次データに勝るものはないと思います。長い卒論との戦いの中で、文献研究だけを続けるのは結構辛い作業ですから、出来る限りフィールドに出て調査をするのがいいと思います。国際総合学類だからって調査地を海外にする必要は全くありません（ちなみに私の調査地は茨城県内の高校でした）。

ここには私が行ったフィールドワークで実際に使った手法や、気をつけたことをいくつか挙げておきます。

・フィールドノートを作る。
　→日時や会話だけでなく、その会話の文脈や状況を何でも書き留める。何気ない会話なども後で思い出してなるべく細かく記録する。
・IC レコーダーを使う。
　→最近は、結構安くて使いやすいものが出回っている。
・フィールドワーク先の人には調査の意図を伝え、信頼関係を築いておく。
・海外でフィールドワークをする際は現地の言葉を少し学んでおく。
・フィールドワークを用いた先行研究をバイブルにする。
・フィールドワークの方法論を学んでおく。
　→井出先生の授業「言語人類学（国際総合学類開設）」が役に立ちました。

２．北川文香

卒論を終えて―反省と思ったことのまとめ―

◆テーマを早めに決定し、研究を開始する

暫定的でもいいです。早めに「これ！」というものを決めて先行研究の文献をあさってください。文献を読むうちに、その研究テーマの文献の量や内容などで変わってくることもあると思います。遅くなって焦る前に最終的なテーマにたどり着けるようにするといいと思います。そして当然、取り掛かりが遅いとその後に響きます。私の場合、言い訳にしかすぎませんが、就活が 8 月まで続いたため 1 学期中はほとんど卒論に取り組めませんでした。そのため夏休みに行こうと思っていたフィールドワークも予定が立たず、10 月という遅い時期になってしまいました。しかもテーマも曖昧、先行研究も不完全なまま、というとても情けない段取りに。そしてフィールドワークでは予想外の結果が出たため、中間発表（10 月末くらい）まで 2 週間もない中、方針が変わりあたふたするはめになりました。もっと早く取り組めていたらより突っ込んだ調査ができただろうし、その後の方針変更にもより幅広く対応することができただろうなぁと、分析する中で非常に悔やまれました。卒業された先輩方も必ずと言っていいほど書いていらっしゃるように、早く取り組むということは本当に重要なことだと実感しました。これは、絶対！です。

◆ワードの使い方を知らない人は書き出す前に調べる or 教えてもらう

ワードにはいろんな便利機能がついています。それによって手作業よりも時間短縮になります。私は最後、目次を作る段階になって「目次機能」というすばらしい機能があることを知りましたが､時すでに遅く･･･結局時間をかけて手作業で終わらせました。知っているに越したことはないです。その他にも 2006 年執筆の風巻さんがワードについて詳しく書いているのでソチラも参考に。

◆とりあえず、書いてみる

私の戦法でした。必要文字数を書いて体裁を整えないことには卒業ができません！！最も重要なことですよ！！書くことが苦手な私はとりあえず、文献中の参考になる部分をそのままに、また自分で考えたことをその後文章にしてつなげていけるよ

う箇条書きでひたすら打ち込んでいました。それをすると頭の中の整理になったり新たな考えが浮かんできたりします。また「文字数」として残る安心感が得られること、文章の組み立て・組み換えのしやすさなど、「とりあえず書く」ことにはいいことがいっぱいです。

◆他人に見てもらう

　これは大事です！自らの極端な思い込みによる苦しみから解放されるでしょう！！私は相談することがとても苦手だったので、最後の最後に相談をして中途半端なものになってしまいました。早め早めに、少しずつでも先生や周りの人たちに相談させてもらいながら書いていく方がいいと思います。

◆印刷は余裕を持って

　提出日のK棟のプリンターはカオスらしいので、できれば前日中に印刷するのが理想です。完璧でなくても前日に「とりあえず何かあっても提出できる用」として2部刷っておくと安心できます。当日に印刷するのであれば、学情が穴場です。

それでは頑張ってください！気分転換は忘れずに！

３．古志歩早

卒論を提出し終わった今､はっきりいって達成感より後悔の念のほうが大きいです。大学生活の集大成である卒論を納得のいくものに仕上げ大きな達成感を得るために、以下のアドバイスを参考に卒論に取り組んでください。決して私の二の舞を踏まないように・・・。

① とにかく書く！

構成を考えるのは大切ですが、先がみえなくてもとりあえず書いてみると前に進めることがあります。私は構想を練るばかりでなかなか書き始めることができませんでしたが、結論や英文サマリーを先に書いてみたところ本論の構成がみえて書き進めることができました。とりあえず書いて見直せば、必要・不必要な要素も分かるので卒論の完成度が高まります。

②フィールドワークは準備が大切

フィールドワークはおそらく夏休みに行う可能性が高いので、それまでに卒論の構想をよく練り、どのような情報が必要なのか把握して準備する必要があります。私は事前準備を何もしないままフィジーに渡航したために、2 ヶ月弱の滞在期間中、最初の 2～3 週間は構想を練って何についてインタビューするかを考えることに費やしてしまいました。フィールドワークが行える時間は限られているので、アポ取りやアンケート作成など、夏休みまでに入念に準備してください。

③注・参考文献はこまめに体裁を整える

私は提出直前に注の番号付けがメチャクチャになっていることや注の内容を書いていないことに気付き、パニックになりました。「後で書けばいいや」と注の番号だけ付けてその内容を書かずにいたり、参考文献の発行元やページ数を抜かして書いていたりすると後で必ず困ります。体裁を整えるということは予想以上に時間がかかるので、書いているうちから気をつけていてください。

卒論は自分ひとりの力では完成しないはずです。協力、応援してくださった人々の期

待にこたえ、時間を割いて丁寧に指導してくださる先生に誠意を示すためにも、精一杯の力を発揮して卒論に取り組んでください。

４．村田明日香

私の卒論反省文

第 1 章　序論

卒論は、真剣に取り組めばその分完成度の高いものとなって自分に返ってきます。関根ゼミは毎年学類の優秀論文賞受賞者を輩出していますが、その受賞者がどのように論文に取り組んできたかを考えると、誰もがその結果に納得するでしょう。歴代受賞者の方々は、だいたい 11 月くらいには第 1 稿（結論まで書いたもの）を先生に提出していたそうです。このことから考えると、最終的に私の論文（11 月の時点で 6,000 字）の第 4 章が支離滅裂になってしまったのは、もはや必然であったと言えます。「夏休みにもっと勉強すればよかったあああああああ！！！」などと、提出 1 週間前に嘆いても無駄なのです（涙）

そんなわけで後輩のみなさん。大学生活の集大成である卒業論文に悔いを残さないよう、できる限り全力投球することをお勧めします。論文執筆は体力・精神力を要する作業です。つらいときは、信頼できる関根ゼミの仲間と乗り越えていってください。みなさんの論文執筆の一助として、この反省文が少しでもお役に立てれば幸いです。

第 2 章　事例

卒論テーマ：　NGO と「市民」　―広報活動による関係づくり―

第 1 節　執筆スケジュール

私の執筆スケジュールを、悪い例として下に載せます。実際に論文を書くときは、自分の予定（たとえば夏はフィールドワークに行く・・・など）と照らし合わせて、12 月末には一通り書き終わるようなスケジュールを組んだ方がいいと思います。

4~5 月：就職活動、論文の方向性について先生と相談(5 月)。

6 月：教育実習のため放置。

7~8 月：夏休みを謳歌。

卒論放置（広告論・PR 論に関する文献を数冊集める&2 冊くらい読む）。

9 月：資格の勉強のため卒論放置。第 1 回自主ゼミ開催。その後数回開催する。

10 月：独論（2 章まで）をコピペして卒論に張り付ける。6,000 字増え、満足。
NGO スタッフにインタビューをする。

11 月：関根ゼミ OG の方に第 1 稿（第 3 章 1 節まで）提出。手直し。

12 月：先生に第 1 稿（第 3 章第 1 節まで）提出。一度帰省し、空白の 1 週間を過ごす。

1 月：元旦から K 棟のパソ室に引きこもる。初旬に第 2 稿、直前に第 3 稿提出。

提出前夜：当然のごとく徹夜。パソコンの使いすぎで腕が筋肉痛になる。

第 2 節　提出日

学情の印刷枚数が足りなくなったため、家のプリンターで印刷しました。75 枚×3 部を印刷したため、コピー用紙とインクが驚くべき速さでなくなっていきました。2 部印刷したところで、印刷したものに『関根ゼミ・公式「論文執筆要領」』に記載されている内容と違っている点があるのに気付きましたが、紙が足りなくなったためそのまま学類に提出しました（学類規定はクリアしていたため）。提出の際、チェックをしている先生の顔が険しくなり、「印刷し直しか！？」と青ざめたのですが、なんとか受理してもらい、私の卒論ライフは終了しました。

第 3 章　反省点・良かった点

第 1 節　反省点

(1)先人の軌跡をたどる

まず、国際の論文がいっぱい置いてある部屋（名前知らない）に行って、先輩方の論文を読みましょう。特に優秀論文を読むことをおすすめします。さもないと、直前になって「分析って・・・いったい何！？涙」と頭を抱えることになるでしょう。私のように。

(2) 注釈はできる限り本文作成と併行して行う

関根ゼミの論文執筆要領に拠ると、注釈の付け方がワードの注釈機能でできるものと違っています。そのため、注釈はワードの機能に頼らず自分で作り直す必要があります。私は「文末脚注の挿入」という機能を使って注釈をつけ（関根ゼミの要領とは

異なる)、論文を一旦最後まで書き終えてから関根ゼミの執筆要領に従って脚注を作り直しました。これがものっっっっすごい大変な作業で、膨大な時間がかかりました。腕が筋肉痛になったのはこのせいです。注釈作成は、本文作成と並行して行うことをお勧めします。

(3) 最初から、「カッコは半角～」といった自分のルールを決めておく。

関根ゼミ・公式「論文執筆要領」を読んでも、わからない点がいくつかあります。たとえば、文中で使用するカッコは半角か全角か、といったもの。こういったものは、先生やゼミの先輩に質問するなどして最初から自分でルールを決めていたほうがいいと思います。私は特に気にせず書いていたので、最終的にカッコを揃えるのに苦労しました。

(4)文献はいろいろあたってみる

私は NGO の広報活動について考えていたので、ずっと NGO 関連の文献を探していました。しかし NGO に関する文献は少なく、困っていました。そこで 12 月に NPO 関連の文献をあたったところ、探していた内容の文献がたくさん見つかり、小躍りして喜んだのを覚えています。このように、文献は「これ関係ないかも…」という分野のものもあたってみることをお勧めします。

第 2 節　我ながらよかったなと思う点

(1)独論でやりたかったテーマをずるずると引きずっていた

実は私の卒論のテーマは、独論とかなり関係のあるものでした。ですから卒論執筆にあたり独論を少し利用することもできましたし、先行研究が比較的楽にできました。また、2 年間 NGO でインターンをしていた経験もあり、NGO に関する知識はありました。独論のテーマを卒論に活用できると、かなり楽です。

(2)ワードの機能を活用

目次や語句検索の機能を教えてもらい、活用していました。時間の短縮につながるので、ぜひ使ってみてください。ショートカットキーなどの使い方は、以前の教訓集で書いてくださっている先輩がいらっしゃるので、それを参考にしていただければいいと思います。

(3)参考文献をストック

読んだ文献で使えそうな部分はパソコンに打ち込んでデータに残し、ときどき見返していました。その際、文献の名前、著者名、ページ数などの必要な情報も一緒に記載しておくと後が楽です。また引用した文献は、「市民社会に関する引用」、「NGO の広報活動に関する引用」など、分野（？）にわけて保存するとかなり便利だと思います。

(4)勉強したことは無駄にはならない

夏休み中に広告論や PR 論の文献を集め、数冊を読みました。広告はマーケティングの世界なので内容が全くわからず、理解するのに苦労しました。しかもゼミで発表しているうちに段々と広告・PR 論から内容が逸れはじめ、最終的に「広告・PR 論なんていらないんじゃないか」という段階にまで達し、「夏休みが完全に無駄になった…」と嘆いたときもありました。しかし実際にフタをあけてみると、私の論文の結論は、無駄だったかもしれない広告･PR 論の勉強がなければ決して思いつかなかったものです。また、この分野の勉強をしていたおかげで、私らしい論文が書けたのではないかと思っています。勉強したことは無駄にならないですよー。がんばってください。

第 4 章　結論

うじゃうじゃ書きましたが、論文に近道はないんじゃないかなーと思っています。先が見えずに苦しいこともあると思いますが、とにかく書くしかないと思います。書きはじめるまでがしんどいのですが、それはもうがんばって一歩踏み出すしかない。苦しくなったら先生や先輩のところに言って､相談してみるといいと思います｡ただ、先生が優しいからと言って甘え過ぎないように…（先生ごめんなさい）。

最後に、先輩の残した格言をみなさんに送ります。

論文は、早めに書く、ではなく「早く書く」！！！

５．佐藤　絹

これから卒論を執筆する方へ、私から「教訓」として言えることはただ一つ、

<u>早く書く</u>

ということに尽きます。

- ある程度時間をかけないことには納得のいく論文は絶対に仕上がりません。書いて、読み直して、書き直す、を繰り返すほど論文は良いものになっていくと思います。
- 「章構成」というのはとても重要で、それを立てるだけでも大変なことです。しかし、考えに考え抜いた章構成が書いていくうちに変わるということもあると思います。また、論文全体の構成より一段具体的な構成、文章の組み立て方、話の持って行き方というのは、書いてみないことにはわかりません。（上手く言えないのですが、書いてみれば実感されることと思います。）ですから、論文執筆の道標として章構成をしっかり作ることはもちろん重要ですが、あまりそれにとらわれすぎずに、とにもかくにも書いてみるという姿勢も必要だと思います。

以上が私の後悔と反省をこめた教訓です。

反対に、よかったと思うことも書いておきます。

- 卒論・独論通して、自分の一番興味のあるテーマに取り組むことができたこと。回り道をした末、最後には一番最初の問題意識に戻ってきたというような感じでした。
- 関根先生、早川さん、フィールドでお世話になった方のご指導を、論文の中身だけでなく、執筆のエネルギー（良い意味でプレッシャー）にすることができたこと。そしてゼミ生の皆さんにたくさん助けられ励まされたこと。とても感謝しています。
- 睡眠を十分にとったこと。

ただ一つと言いながらたくさん書いてしまいました。

何しろ卒論は長丁場ですから、体を大事にして、楽しみながら、がんばってください。

最後にもう一度言いますが、早く書きましょう！

６．塚本琴美

卒論執筆を終えて

はじめに

卒論執筆前は、「こんなに長く書ける気がしない」とか、「何から手をつけていいかわからない」と思う人がほとんどだと思います。私自身も、独立論文の時点でその状態に陥っていました。ただ、この時の苦労から、卒業論文に活かすことのできた点がいくつかあります。ひとつは、十分な準備期間をとることです。テーマを何にするか。この点は早くに決めておいて損はありません。事象の中のどこに焦点を置くかは別として、その事象を定めておくといいと思います。書くだけが卒論の作業ではないので、夏休み前からできることはたくさんあります。ふたつめは、とにかく書くことです。書くだけが卒論の作業ではありませんが、書かなくては卒論を出すことはできません。先生もおっしゃるように、書きながら考えることも大切です。後で「字数が足りない！」という事態にならないように、提出日から逆算し、早い段階から書き始めるといいと思います。

長々と書きましたが、一番覚えておいてほしいのは、「提出日を常に意識すること」です。具体的には、クリスマスやお正月をはさむことも考慮し、スケジュール帳に「○章まで！」というように執筆期限を設けて記入するといいと思います。執筆を早く終えることで、先生や先輩のアドバイスを受けて改善していく作業に専念できると思います（私はそこまでおよびませんでした）。

卒論執筆の実例

<u>題目</u>

マラウイにおける「一村一品運動」の妥当性（5 章構成）

<u>執筆の流れ</u>

4 月　　独論を継承する形＋α のテーマを模索

5 月

7～8 月　　参考文献収集

（基本は「学生最後の夏休みを満喫してください」との先生の言葉に忠実に遊び

呆ける）

9 月　　文献読み込み開始

10 月　　構想発表　→　テーマの軌道修正

（平日は卒論関係＋バイト、週末は遊びに費やす）

自主ゼミ開催

11 月　　題目変更（最終）

執筆開始

第 1 章のみ草稿提出

12 月　　卒業旅行第一弾でイタリア周遊♪

（先生からは「卒業旅行って卒業が決まってから行くんじゃないの」と指摘される）

年末に第 1 章～第 3 章までの草稿提出

（集中力覚醒！）

1 月　　実家に帰らずパソコン室に

11 日前後に第 4 章までの草稿提出

14 日前後に全編提出

19 日卒論（完成版）提出

反省点

・集中力覚醒が遅かった

10、11 月なんて、17-22 時のバイト中に文献を読む程度。日中パソコン室にいても集中できず、家に帰って昼ドラをみる始末。自分の集中できる環境を見つけておくといいかもしれません。

・題目決定にわたわたする

事例にタイを入れるのか。副題をどうするのか。題目変更の期限に迫られて急に焦りだす。

こんな事態に陥らないためにも、構想は早めに練っておきましょう。

・出典探しの苦労

ゼミの中間発表の資料でも、引用した個所やその文献は明記しておいたほうがいいです。あとあと参照したときに使えると思っても、出典が書いてないといちいち文献から探すことになります。

・結論が見えない

卒論を書きすすめていくものの、1 月に入っても結論がどう着地するのか見えてきませんでした。

先生に相談したところ「書いてるうちに結論が見えるってことも多い」と言われ、ひたすら書いて→図にして考えて→また書いてという作業をしました。私の場合、結論が見えないと非常に不安でした。結論を見据えて、安心して書きたかったです。

良かった点

・体調管理

完全に朝型生活。夜は 24 時前後に就寝→7 時半起床→朝ごはん作り＆食べる→9 時にはパソ室に→16 時バイトに向かう→22 時半帰宅　という日々を繰り返していました。新型インフルエンザにもかからず、おおむね良好な体調を保てました。風邪の初期段階には養命酒が効きます。

・焦る心

公ちゃんや先生の言葉に危機感を覚えたことで、11 月あたりから執筆を開始できました。12 月に卒業旅行をぶっこんだこともあり、人よりがんばらないといけないと思った結果、集中力が覚醒しました。

・先生に相談

草稿のチェックを含め、先生のご指摘は卒論を大きく改善してくれます。先生に頼りっきりでも問題ですが、行き詰ったら先生に相談するのが賢明だと思います。もちろん、卒論執筆者同士の相談や草稿チェック、提出等に関する情報共有も大切です。大いに役立てましょう。そしてお礼も忘れずに。

・謝辞効果

早い段階に謝辞を書いておくと、やる気が出ます。行き詰った時、最後のページを見て「がんばらなきゃ！」って思えます。かなり精神面に頼るやり方ですが、私のような A 型の人には効果があるのではないでしょうか。試してください。

おわりに

卒論は長いです。しんどいです。でも書けます。人生最後の論文執筆です。適度に焦り、集中力を覚醒させ、周りの人と支えあいながら乗り切りましょう。